

第1回国土交通アドバイザー会合 概要

日時:平成20年11月27日(木)16時30分～18時

場所:国土交通省4階特別会議室

出席者:(アドバイザー)青山佳世委員、奥田碩委員、樫谷隆夫委員、田中節夫委員、
中西英一郎委員、東国原英夫委員、若林清造委員
(国土交通省)金子一義大臣、金子恭之副大臣、西銘恒三郎政務官 他

【要旨】

○ 金子大臣から挨拶

メンバーの皆様に出席いただき御礼申し上げます。国土交通行政を推進するに当たり、様々な課題について、誤りなきようにしていくため忌憚のないご意見をいただきたい。

○ 金井道路局長から資料説明。

○委員からの主な御意見

(必要な道路とは)

- ・ ムダなものをつくらない仕組みが大事だが、必要な道路、ムダな道路は何かという議論をする際にB/Cだけで優先順位をつけると都市が有利になってしまう。B/Cにのらない整備効果についても把握する努力が必要。
- ・ 単純にB/Cとして把握できないものでも、例えば救急医療で拠点病院まで何分で到達できるか等、数値化が可能なものもある。
- ・ 真に必要な道路を議論するときに、定性的なものを評価するべき。観光立国等最近のテーマも考慮して議論をすべき。
- ・ 道路整備には、人口が減少する中で地域を企業誘致等により活性化できるというメリットもある。
- ・ 地域により整備率にばらつきがあり、低いところについては少なくとも全国平均レベルにすべき。インフラの格差で地域間格差が助長される。
- ・ 地方の医師不足の一因は、一定の生活水準を確保できない地域に医師が家族を呼べないため。道路でつなぐことにより生活圏ができれば医師を定着させることができる。
- ・ 地方は限界集落等人口の少ない地域が多く、道路の通行量が少ないのはやむを得ないこともある。限界集落を維持することが国土保全につながるという観点で道路整備を考えることも必要。
- ・ ターン、Uターンといった地方に人口を誘導していくための戦略的な道路整備が必要。
- ・ 道路を低コストで整備する工夫を行い、早くミッシングリンクをなくすべき。
- ・ 先般の交通需要推計は厚生労働省の推計に依拠して今後人口が大幅に減少するという前提になっているのではないかと。厚生労働省の推計の通りであれば将来的に日本は国として成り立たず、外国人を受け入れる必要が生じてくる。交通需要推計にもその分を考慮すべきで、需要が減りすぎではないか。

(一般財源化)

- ・ 財政の論理と税の論理は別であり、税は国民との約束なのだから、道路特定財源の一般財源化には国民の理解を得る必要がある。
- ・ 一般財源化は使い途の議論だけで負担の議論がないのでは。国の財政が厳しいのは理解するが、ユーザーの理解を得る努力が必要。
- ・ 一般財源化しても、電線地中化や道路の維持管理等、道路関係で対応すべきことはまだあるのではないか。
- ・ ガソリンの値段が下がっても軽油の値段は下がっていない。道路整備に回さないのであれば税金を下げて欲しい。
- ・ 道路財源を公共交通等に使うことまではユーザーの理解を得られるかもしれないが、それ以外に使うのは説明が困難。
- ・ 地方においては、中山間地域の道路の維持管理コストがかかること、また財源の半分は既設道路の償還分に回ることから、財源の確保が必要。

(高速料金)

- ・ 経済対策により努力してもらっているが、日本の高速料金は外国よりもまだまだ高い。引き続き高速料金引き下げをお願いしたい。
- ・ クレジットカードを持っていない方もETCを利用できるようにするなど、きめ細かい対応をお願いする。
- ・ 高速料金引き下げの将来に渡っての全体像を示し、ユーザーに受け入れやすいようにして欲しい。
- ・ 高速料金は環境にも配慮して適度な料金設定をお願いしたい。
- ・ 高速料金の設定は、高速道路の建設費40兆円を料金と税金のどちらで返済するのがより国民に受け入れやすいかという問題ではないか。

(国民の理解)

- ・ 中期計画の策定過程でもっと情報公開を行い、ユーザーに自分の意見が反映されているという実感をもてるようにして欲しい。ユーザーにとっては高規格幹線道路ではなく、身近な道路のほうが重要。
←中期計画の策定過程において自治体等のご意見を伺い、インターネットで一般の方からもご意見も募集した。身近な道路の問題については地方ブロックの計画で対応したい(道路局長)。
- ・ 地域には都市住民には伝わらない道路の必要性がある。また地方でも道路が整備されているところとそうでないところで道路整備の必要性の認識に差がある。批判を受けたような無駄な広報は慎むべきだが、地道な広報活動により道路の必要性について国民の理解を得る努力をして欲しい。
- ・ 国土交通省はこれまで国民の理解を得ることを積極的に取り組んでこなかった。開かずの踏切解消、通学路整備等身近なところで努力しているが、広報が下手。今後はこれらの取組を国民にご理解いただくことが重要。(金子大臣)